

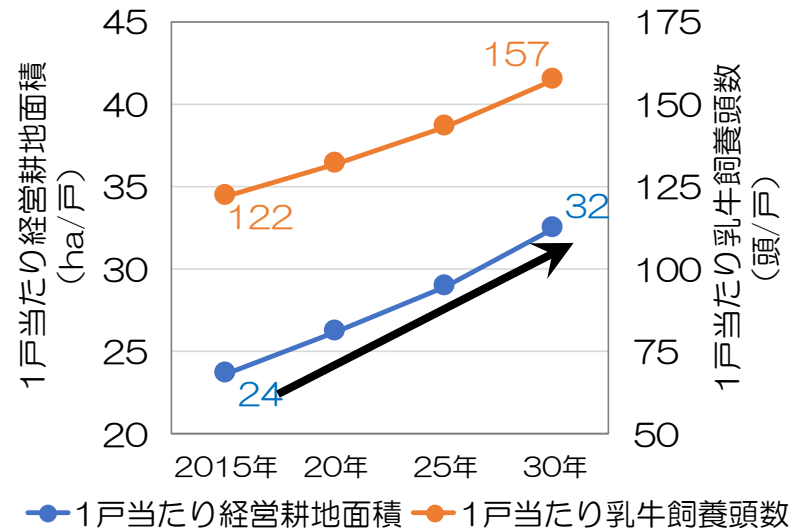
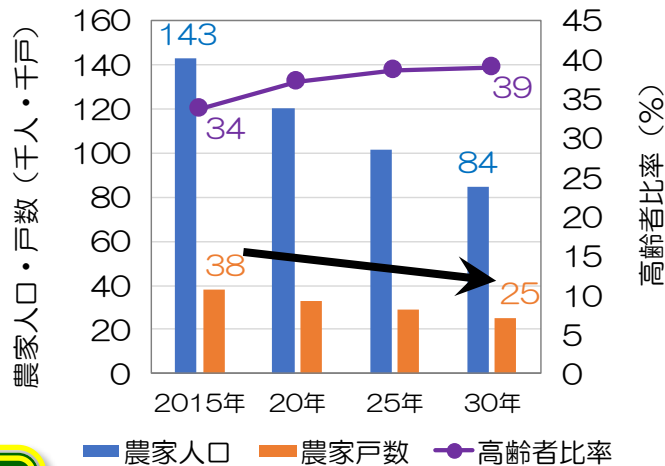
これからどうなる？北海道の農家戸数と平均経営規模

2015年までの統計値の傾向をふまえて、2030年までの北海道の販売農家の人口、戸数、経営規模を予測しました。

背景

- 農林業センサスによると、過去15年間（2000～2015年）で北海道の販売農家の戸数が61%へ減少する一方で、1戸当たりの平均経営耕地面積は15.9haから23.6haへと48%拡大しています。
- そこで、北海道の農家戸数と平均経営規模の動向予測をおこない、具体的な経営耕地規模を想定したうえで、農業施策や技術開発の目標を設定する必要があります。

成果



戸数
予測

2030年の販売農家戸数は、2015年対比で66%への減少が見込まれました。

規模
予測

北海道の農地資源を維持するためには、2030年までに1戸当たりの経営耕地面積を37%拡大する必要があることが分かりました。

期待される効果

- 組織経営体が果たす役割も含め、今後の農地や乳牛の担い手等について、行政機関等が今後の農業施策や技術開発目標を考える材料としての活用が期待されます。なお、詳細は道総研農業試験場資料第42号として公表しております。

販売農家：1世帯によって営農される経営体（経営耕地面積30a以上または農産物販売金額50万円以上）であり、協業法人等の組織経営体を含まない。